

NPO 法人富山ダルクリカバリースクールズの紹介

第 60 回非正規全国交流集会 in 富山にお集まりの皆様、こんにちは。私たちは富山ダルクです。

DARC(ダルク)とは、Drug(ドラッグ)の D、Addiction(アディクション=嗜癖、病的依存)の A、Rehabilitation(リハビリテーション)の R、Center(センター)の C を組み合わせた造語です。富山ダルクは「今日一日だけでも薬を使うのを止めよう」というスローガンがもとになっています。創設者は近藤道夫氏。自らも覚醒剤依存者で、86年に東京の荒川区にある倉庫を借りて、カトリック教会の全面的な援助で薬物依存者の社会復帰施設を設立しました。現在は全国 70 カ所以上となっています。

富山ダルクは、2008年に富山県岩瀬古志町に開設され、2015年5月に富山ダルクリカバリースクールズとして NPO 法人となりました。愛知県出身で理事長の林敦也自身、薬物を使い続け、心身がボロボロになり、生きることも死ぬこともできなくなる中で、茨城ダルクに出会い、入寮し、回復の道を歩み始めました。そしてアメリカでの集会に参加する機会を得て、素晴らしい人間的魅力を放っている、かつての薬物依存者たちに出会い、目の覚める思いをしました。その後、東京・山梨・北九州など様々な場所での研修を経て、富山でダルクを設立し現在に至っています。

富山ダルク入寮者の使用薬物はシンナー、覚醒剤、大麻、アルコール、危険ドラッグ、向精神薬(病院で出される薬)、市販薬(鎮咳剤)など様々です。

そして今、ダルクのスタッフたちは刑務所、病院、学校、地域など数多くの場所へメッセージを運んでいます。メッセージといっても、私たちができることは自分の体験を正直に話すことしかありませんが



…。仲間たちの回復の歩みを通して、薬物に苦しんでいる人達に、回復の希望を少しでも感じてもらえれば、そして、そのようなことを実現できる場所をと願って、富山ダルクは設立されました。ダルクの活動の特徴は、依存という共通の悩みを抱える者同士が集まり、ともに正直に語り合い、互いに支え合うことによって、自分自身の問題を解決していこうとするセルフヘルプグループの原理に基づく活動です。その中で、社会参加し、地域との関係を作っています。

薬物依存とは、「身体的な痛み」と「寂しさの痛み」の表現であると考えています。「寂しさの痛み」とは、社会の中で居心地の悪さや役に立っていない、生きる意味を見出せないという感情であり、そこには、孤独感や孤立感が伴っています。その「寂しさの痛み」がもたらす感情は、恨みや嫉妬、偏ったプライドです。そして、それらの感情は周囲の人たちに向けられ、社会に向けられます。また、薬物依存は「病気」です。「心の病」「関係性の病」です。つまり、自分ひとりの力では、自分の意思や根性の力では治すことができません。「病気」と

いと、その治療ができるのは、医師やカウンセラーのような専門的な人しかいないのではと思われるかもしれませんが、そのような専門家だけでは、回復は難しいのです。なぜなら、治す人、治される人の関係は、いわばコントロールする側、される側の関係に陥りやすいという意味でも限界があるからです。

ダルクは薬物をやめさせるための強制施設ではありません。自分の人生を自由に選択できるようにする施設として存在価値をもっています。薬物依存者は、周囲からの強制や強要では回復が不可能であることを、自らの体験を通じて知っています。自らの気付きの中で、同じような経験をしてきた仲間との関わり合い、絆を結ぶ体験を通じて、回復の歩みを実感していく必要があります。

この富山ダルクで行っている様々なリクリエーションプログラムの中に和太鼓があります。岩瀬浜海水浴場の駐車場で古タイヤを並べ、



日々、仲間たちと練習に励んでいます。6年位前より、太鼓チーム「岩瀬太鼓海岸組」を結成し、現在では、富山県をはじめ北陸中心に年30回ほど出演しております。お祭りや福祉施設、学校などに呼ばれ、私たちの和太鼓を披露させていただいております。

今後も仲間一同、力を合わせて、いまでも苦しんでいる多くの仲間たちの安全で安心な居場所になっていくように活動していきます。私たちは、家族、本人の相談も行っております。秘密厳守です。電話076-407-5777にご連絡を。